

(様式2)

「探究的な学習活動における IT・データサイエンス活用促進事業」報告書

|      |   |
|------|---|
| 学校名  | 北海道北見工業高等学校   |
| 実施日時 | 令和5年10月3日(火) 15:10~16:30  |
| 講師   | (所属) 北海道大学 大学院教育推進機構 DX 教育連携部門<br>(職・氏名) 教授 行木孝夫 様 特任准教授 川俣大志 様<br>(電子メール) kawamata@grad/hokudai.ac.jp  |
| 実施概要 | <p>次のとおり IT・データサイエンスをテーマとした教員対象の研修会を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>ねらい<ol style="list-style-type: none"><li>IT・データサイエンスについて基礎的な知識を身に付ける。</li><li>IT・データサイエンスの活用法について理解を深める。</li><li>IT・データサイエンスを取り入れた授業展開について考察する。</li></ol></li><li>日程 (Zoom 開催)<ol style="list-style-type: none"><li>15時10分~15時45分 データサイエンスに関する講義<br/>教授 行木孝夫 様</li><li>15時45分~16時30分 探究活動に関する講義<br/>特任准教授 川俣大志 様</li></ol></li><li>講義、研修等の概要<ol style="list-style-type: none"><li>データサイエンスに関する講義<ol style="list-style-type: none"><li>会社や大学等における活用事例 (インターネットショッピングにおけるレコメンドサービス機能)</li><li>野球の統計分析 (打球速度と打球角度、長打確率)</li><li>AI・データサイエンスの必要性</li></ol></li><li>探究活動に関する講義<ol style="list-style-type: none"><li>探究活動の在り方</li><li>班別活動の準備</li><li>ディベート実践例</li><li>北見工業高等学校における課題研究 (探究活動) の課題と課題解決に向けた提案</li></ol></li></ol></li><li>成果 (教員の変容及びねらいの達成状況等)<p>近年、身近な言葉となりつつある IT・データサイエンス、AI などについて、具体的な事例を紹介していただいたことから、これらが生活に浸透していることが理解できた。今後、授業等において、IT・データサイエンスを取り入れた教育活動を行っていく上で、基礎的な知識を身に付けることができた。</p><p>また、本校においては、科目「課題研究」を教育課程に位置付けて実施しており、探究的な要素をどのように組み込んでいくかが課題となっているが、生徒がグループ活動を行うに当たっては、生徒同士で議論と討論ができる力が必要であることから、事前の準備として、意思疎通力を身に付ける「議論の練習」を取り入れるなど、入学段階から系統的に身に付けさせる教育活動が求められることが分かった。情報化が急速に発展していく中で、教員一人一人が IT・データサイエンスについて、教科の中でどのような形で結び付けていくかを考えていく契機となった。</p></li></ol> |

